



竹内やすひろ

# 市政報告

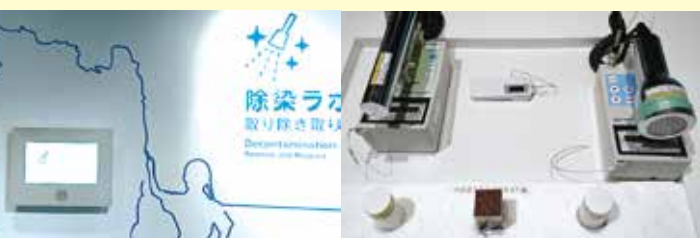
ヒットエンドラン通信



## 福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」を視察

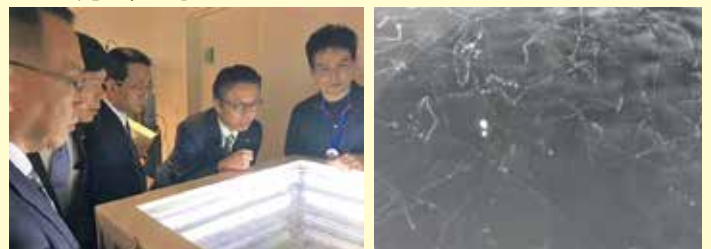


「目に見えない」放射線。  
5つのラボで、放射線のことを知り、きちんと判断するための力を育みます。



**除染ラボ**  
ふくしまの環境を一刻も早く元に戻すために行っている取り組みを紹介しています。いろいろな場所ごとに最適な方法で除染が行われている様子を映像やスライドショーで確認することができます。

東京電力福島第1原発事故で福島県から避難している子どもたちが、いじめに遭っていた問題を受け、放射線に関する正しい知識を身に付ける放射線教育の重要性が改めて指摘されています。そこで、子どもたちの学習拠点として注目を集める福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」(同県三春町)を視察しました。横浜市でも今年2月、公明党の質問を受け、17年度から環境創造センターと連携した教員研修をおこなう方針を示しています。



**霧箱**  
自然界に存在する放射線が通った道筋に霧が発生し、その飛跡を見ることができる装置です。



**測るラボ**  
『測る』ことが放射線から身を守る第一歩です。空間のモニタリング、食品や水などの検査など、わたしたちの身近なものの測定について紹介しています。

横浜市議員  
**竹内やすひろ (たけうちやすひろ)**

神奈川県政務調査事務所  
横浜市神奈川区大口通り127-16コスガビル1F  
TEL : 045-716-6822 FAX : 045-716-6823  
ホームページ <http://takeuchi.180r.com>  
E-mail [mail@takeuchi.180r.com](mailto:mail@takeuchi.180r.com)



温暖化対策・環境創造・資源循環委員会副委員長  
観光・創造都市・国際戦略特別委員会  
公明党神奈川県本部 幹事長代理  
公明党神奈川支部 支部長  
防災士

公式ホームページ  
<http://takeuchi.180r.com>



竹内やすひろ  
facebook

## コミュタン福島の来館者は5万人を突破。

コミュタン福島の来館者は5万人を突破。県が交通費(貸し切りバスの経費)を補助していることもあり、県内小学5年生を中心に校外学習の場として積極的に利用されています。原発事故により三春町へ移転してきた富岡町立富岡第一中学校では昨年11月、全生徒が総合的な学習の時間などを使い、コミュタン福島を見学。

ある生徒は、当初、除染で取り除いた土を袋に詰め込み、校庭に埋めることへの安全性に疑問を持っていたが、土の遮蔽効果を知り、納得したといいいます。また、富岡町内全域がいまだ避難区域のままですが、原発事故直後と比べ、「放射線量が思っていた以上に下がっていた」との感想も寄せられた(同町は4月1日、帰還困難区域を除き、避難指示が解除)。同校の阿部洋己校長は「放射線や原発事故、その後の復興の歩みについて、生徒が理解する上で、コミュタン福島が大いに役立っている」と語ります。(公明新聞)



## 神奈川区版「中学生向け防災ガイド」



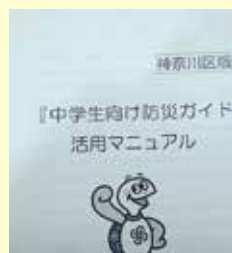
神奈川区では、中学校における防災教育を充実するために「中学校向け防災ガイド」及び教職員への「防災ガイド活用マニュアル」を作成しました。

日頃、地域にいる中学生は自らの命を守ることと併せて、「共助の担い手」として地域から大きな期待も寄せられています。地域防災拠点運営委員長、区内公立中学校職員、神奈川消防署と「次世代啓発プロジェクト」で議論を重ね、中学生が理解しやすく、そして教職員が説明しやすい「中学生向け防災ガイド」と併せて「防災ガイド」活用マニュアルも作成。今回作成された「中学生向け防災ガイド」は、神奈川区内の公立中学校の全生徒に配布。「地域のイベント参加」「登下校時のあいさつ」等、日頃からできる「共助」の取組の重要性の啓発、中学生が「助けられる人」から「助ける人」になるためにできることの一例も紹介されています。

### 防災教育で災害から命を守る文化を

いつやってくるかわからない災害に備え、大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害にあったときすぐに立ち直る力を一人一人が身に付けるための防災教育を推進することは重要です。防災教育を学んだ子どもは大人になっても「減災」を身に着けた親になり、子どもに教える。こうした事を、災害から命を守る文化にすることが必要であると思います。

### 教職員に配布される「防災ガイド」活用マニュアル



地域防災関係者、教職員に配布される「防災ガイド」活用マニュアルでは、防災教育時のねらいやポイントとして、自助、共助の必要性を、過去の事例や具体例を交えて解説。

大規模地震発生時に備えて家族で準備、確認すべきことや、発災時に有効な連絡手段について具体例を挙げて紹介しています。